４　伸びが鈍化してきた鉱工業生産

本県の鉱工業生産は、ＩＴバブルの崩壊により国内外の経済が停滞した 2001 年から、02 年に入ると海外景気が徐々に回復したことにより輸出が増加し、生産回復の動きがみられた。03 年前半は、生産活動は概ね横ばいで推移したが、後半に回復基調となった。04 年以降は 03 年後半からの回復の動きを受け、生産は緩やかな増加傾向を続けた。06 年に入り、新興国などの経済拡大に伴う輸出増加にけん引され、生産は増加してきたが、07 年に入ると高水準を維持しながらも伸びは鈍化し始め、年央に端を発したアメリカの金融危機の影響で対米輸出が徐々に減少し、年間を通して前年の伸び率には届かなかった。

（６年連続で上回った生産指数）[注]

07 年の鉱工業生産指数は 111.3 で前年比 3.9%の上昇となり、６年連続して前年を上回った。愛知県鉱工業指数の業種分類に基づく業種別にみると、全 22 業種中、輸送機械工業、電子・デバイス工業、プラスチック製品工業など 13 業種で上昇し、一般機械工業、家具工業など９業種で低下した（図表４－１）。

注：旧基準の数値を 2005 年基準に接続した分（2002 年以前）を含む。

図表４－１　2007 年の業種別生産指数（愛知県）

（2005年=100）　（%）

	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鉱工業	10000.0	111.3	3.9	3.9
鉄鋼業	646.2	103.8	1.6	0.097
非鉄金属工業	139.1	105.0	0.1	0.001
金属製品工業	352.7	99.8	0.2	0.007
一般機械工業	1207.4	101.9	−2.6	−0.304
電気機械工業	456.6	111.1	1.4	0.064
情報通信機械工業	182.7	136.0	3.2	0.072
電子部品・デバイス工業	262.1	118.8	6.6	0.181
輸送機械工業	4549.8	119.4	7.8	3.653
精密機械工業	33.2	119.9	15.2	0.049
窯業・土石製品工業	352.6	105.4	0.6	0.020
化学工業	267.9	96.0	−0.8	−0.020
石油・石炭製品工業	33.6	105.5	15.0	0.043
プラスチック製品工業	463.2	107.5	2.8	0.125
パルプ・紙・紙加工品工業	84.4	101.5	−1.4	−0.011
繊維工業	149.3	94.4	−3.2	−0.043
食料品工業	400.6	94.5	1.2	0.041
ゴム製品工業	166.0	111.8	5.1	0.084
家具工業	89.2	95.1	−6.9	−0.059
印刷業	113.8	94.9	−1.0	−0.011
木材・木製品工業	31.8	90.0	−15.4	−0.049
その他製品工業	14.5	100.1	−0.9	−0.001
鉱業	3.3	88.5	−9.3	−0.003

注：ウェイトは付加価値額ウェイト
資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

（全国と本県の状況）

本県と全国における鉱工業生産に占める業種別のウェイトを見ると、本県では、輸送機械工業が 45.5%と他の業種を抜きん出て高く、これに次ぐ一般機械工業が 12.1%と、この２業種だけで全体の 60%近くを占めている。特に輸送機械工業は、2008 年に行われた指数改定（2005 年基準）において、それまでの 37.5%から８ポイントもウェイトを高め、本県の鉱工業全体における影響力を年々強めている。逆に、ＩＴ関連品目の多い情報通信機械工業は 1.8%、電子部品・デバイス工業は 2.6%と２業種合わせても 4.4%であり、ＩＴ産業の占める割合が非常に低いという特徴を備えている。

図表４－２　2007 年の業種別生産指数（全国）

（2005年=100）　（%）

	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鉱工業	10000.0	107.4	2.8	2.8
鉄鋼業	599.7	105.9	3.2	0.189
非鉄金属工業	211.7	104.4	0.1	0.002
金属製品工業	566.8	96.8	−1.9	−0.103
一般機械工業	1318.2	109.2	2.6	0.353
電気機械工業	607.3	103.2	−1.2	−0.076
情報通信機械工業	433.4	108.4	1.9	0.083
電子部品・デバイス工業	799.3	131.0	11.2	1.010
輸送機械工業	1685.8	111.9	5.8	0.984
精密機械工業	102.0	114.9	6.3	0.066
窯業・土石製品工業	293.0	102.0	0.8	0.022
化学工業	1181.3	103.9	1.1	0.124
石油・石炭製品工業	99.9	97.6	−0.4	−0.004
プラスチック製品工業	383.7	101.4	0.2	0.007
パルプ・紙・紙加工品工業	241.0	101.0	0.4	0.009
繊維工業	200.9	90.6	−5.4	−0.100
食料品・たばこ工業	721.2	99.8	1.8	0.124
ゴム製品工業	153.6	105.7	2.4	0.037
皮革製品工業	12.3	90.5	−2.4	−0.003
家具工業	85.3	96.3	−2.8	−0.023
印刷業	180.7	107.8	2.3	0.042
木材・木製品工業	57.3	93.6	−5.1	−0.027
その他製品工業	44.7	144.1	17.0	0.089
鉱業	20.9	106.6	3.9	0.008

注：ウェイトは付加価値額ウェイト
資料：経済産業省「鉱工業指数年報」

一方、全国では、輸送機械工業が 16.9%、一般機械工業が 13.2%、合計で約 30%となるため、この２業種が占めるウェイトは、本県での割合の約半分となる。逆に、ＩＴ関連品目の多い情報通信機械工業は 4.3%、電子部品・デバイス工業は 8.0%と２業種合わせると 12.3%となり、本県での割合の３倍近くを占めている。

このように、本県と全国では業種別のウェイトに大きな差があることもあり、生産指数の動きにも異

なる様相がみられることがある。

本県の生産指数の動きを四半期別にみると、01年10-12月期を底に徐々に回復し、02年7-9月期には対前年同期比がプラスに転じた。03年1-3月期から4-6月期には輸出の鈍化によりやや低下したが、7-9月期以降、輸出の増加や設備投資の回復に伴い上昇傾向が顕著となった。04年10-12月期には相次ぐ台風の襲来・災害の発生などの天候要因もあって一時的に伸びが縮小したが、05年には輸送機械を中心に輸出が好調であったことから、前年比 4.0%増となった。06年も世界経済の回復にけん引され引続き好調を維持し、同7.1%増という高い伸びを示した。

一方、全国では、04年後半からＩＴ関連品目の輸出の伸びがアジアやアメリカ向けを中心に減速、特に05年7-9月期には前年同期比が0.2%減となるなど低調に推移し、05年は前年比1.3%増と伸びが鈍化した。05年10-12月期から再び勢いを取り戻し、06年は同4.5%増と好調に推移した。

07年は、引き続き好調で、本県、全国ともに年間を通じ前年を上回って高水準を維持したが、伸び率は鈍化し、本県の生産指数は前年比 3.9%増、全国は同 2.8%増となった（図表４－２、４－３、４－４、４－５）。

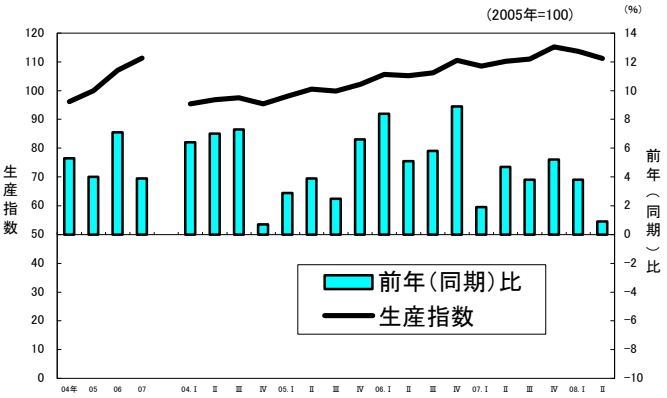
図表４－３　四半期別生産指数

（2005年=100）　（%）

		愛知県		全　国	
		指数	対前年（同期）増減率	指数	対前年（同期）増減率
2006	年間	107.1	7.1	104.5	4.5
	1-3	105.6	8.4	102.1	2.6
	4-6	105.2	5.1	103.9	4.2
	7-9	106.2	5.8	105.0	5.1
	10-12	110.5	8.9	106.3	6.0
2007	年間	111.3	3.9	107.4	2.8
	1-3	108.5	1.9	105.8	3.1
	4-6	110.2	4.7	106.4	2.3
	7-9	111.0	3.8	108.2	2.6
	10-12	115.2	5.2	109.2	3.3
2008	年間	－	－	－	－
	1-3	113.6	3.8	108.4	2.3
	4-6	111.2	0.9	107.5	1.0

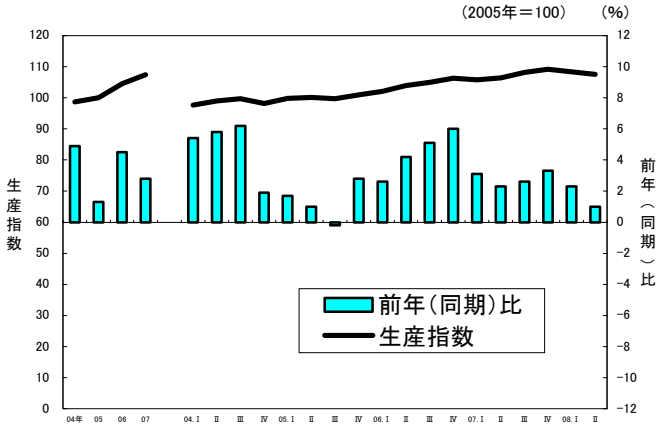
注1：期別の指数は季節調整済指数
　2：対前年同期増減率は原指数から算出

図表４－４　鉱工業生産指数の動き（愛知県）



資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

図表４－５　鉱工業生産指数の動き（全国）



資料：経済産業省「鉱工業生産・出荷・在庫指数」

（減少した投資財）

本県における07年の生産を財別にみると、生産財、消費財は前年比増となったが、投資財は、前年比減となった。投資財のうち資本財は、これまで好調に推移してきたが、製造業の設備投資の伸び幅が縮小したことから前年比 0.3%増となり、かろうじて５年連続の増加となった。また、建設財は、国内で公共工事の減少が続いていることに加え、07年は改正建築基準法の施行という特殊要因により住宅建設が減少に転じたことから同 4.4%減と２年ぶりに減少した。投資財全体では同 0.7%減となり、５年ぶりの減少となった。

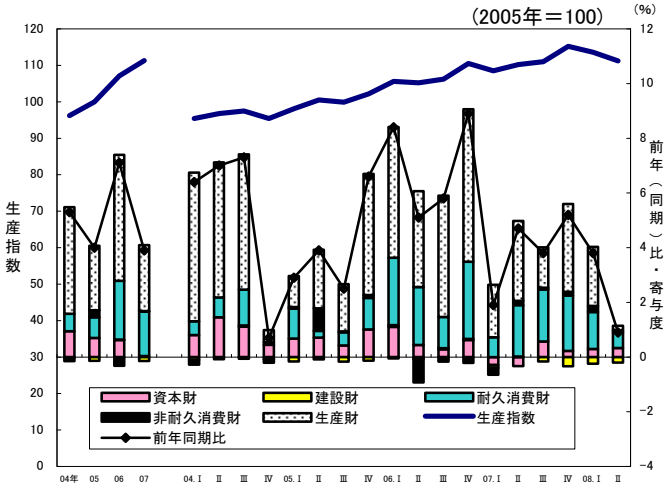
消費財のうち耐久消費財は、乗用車などの海外輸出が引き続き好調だったことから同 8.7%増となり、４年連続の増加となった。また、非耐久消費財は、

前年に不調だった衣料品などがやや好転したことから、同 0.5%増とわずかながらも２年ぶりに増加した。消費財全体では同 7.3%増となり、４年連続の増加となった。

生産財は生産の増加傾向が続いていることから、02 年以降６年連続の増加となる同 3.9%増となった。

このように、07 年は、前年からの景気回復及び世界経済の拡大の流れはやや鈍化したものの、生産財、消費財で前年比増の動きが続いた。投資財のうちの資本財はほぼ横ばいであったが、もう一方の建設財は、年後半からの住宅建設の落ち込みの影響を受けて減少し、投資財全体では減少した（図表４－６）。

図表４－６　鉱工業生産指数　財別寄与度の動向



資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

（注）　特殊分類（財別）の体系

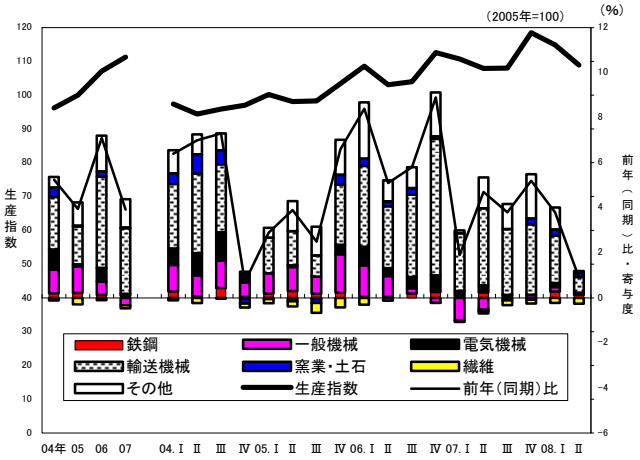
- 鉱工業製品
  - 最終需要財
    - 投資財
      - 資本財
      - 建設財
    - 消費財
      - 耐久諸費財
      - 非耐久消費財
  - 生産財
    - 鉱工業生産財
    - その他用生産財

（主要業種の動向）

2007 年は、前年に引き続き本県の主力産業である輸送機械のほか、鉄鋼、電気機械などの伸びが続いた。

本県の鉱工業生産の中で際立ってウェイトの高い輸送機械は、輸出にけん引されて生産が増加していることから、輸送機械の寄与度は、07 年の対前年増減率 3.9%のうちの 3.65%分を担った。これを寄与率にすると 93.6%を占めることになり、本県鉱工業生産の増加の大半が輸送機械によるものとなっている（図表４－７）。

図表４－７　鉱工業生産指数　業種別寄与度の動向



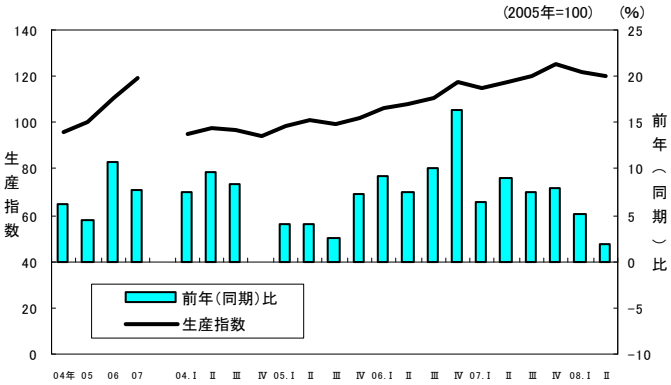
資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

〈輸送機械工業〉

本県の基幹産業である輸送機械の 2007 年の生産指数は 119.4 で、前年比 7.8%増となり、６年連続で上昇した。これは自動車が同 9.9%増、自動車部品が同 5.7%増となったことなどによる。

07 年の１年間の生産指数の動きをみると、06 年の後半の高い伸びには至らなかったが、引き続き上昇傾向で推移し１年を通じて高い水準を維持した。

図表４－８　輸送機械工業の動向

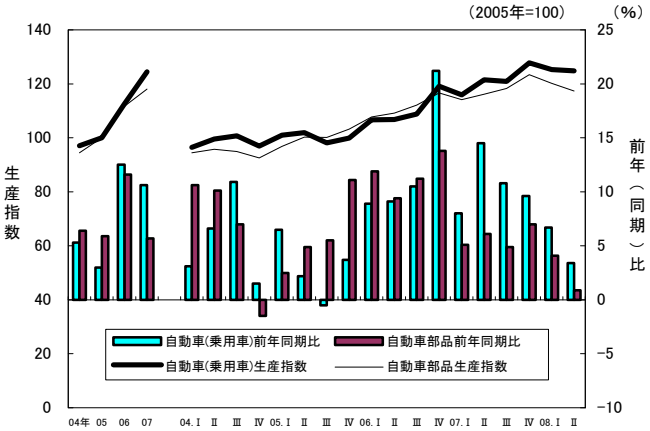


資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

輸送機械工業の中で32.5%のウェイトを占める乗用車の需要の動きをみると、01 年以降 05 年までほ

ぼ横ばいで推移していた国内の乗用車販売（軽乗用車を含む）は、07 年は前年比 4.8%減と３年連続で減少し、マイナス幅も拡大している。その一方で、名古屋税関管内の乗用車の輸出が 07 年は同 14.3%増となるなど前年に引き続き好調で、海外需要が増加していることから国内生産は増加している。また、60.3%のウェイトを占める自動車部品は、海外での自動車需要の増加を背景に、国内生産向けに加え、海外生産向け輸出の増加にけん引され、生産の増加が続いている（図表４－８、４－９）。

図表４－９　自動車(乗用車)・自動車部品の動向



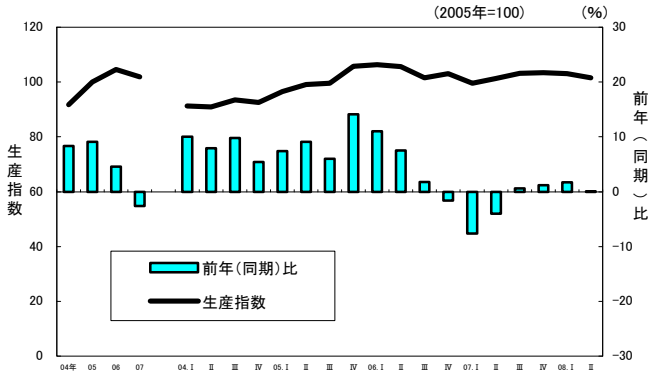
資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

〈一般機械工業〉

2007 年の一般機械の生産指数は 101.9 で、前年比 2.6%減となり、５年ぶりに低下した。これは、03 年以降増加が続いていた国内の設備投資に一服感が出てきたことに加え、前年まで好調だった輸出にかげりがでてきたことによる。運搬機械が 35.5%減と２年連続の二桁減が続いたほか、前年の好調を支えた産業用ロボットが 2.8%減になったことなどによる。

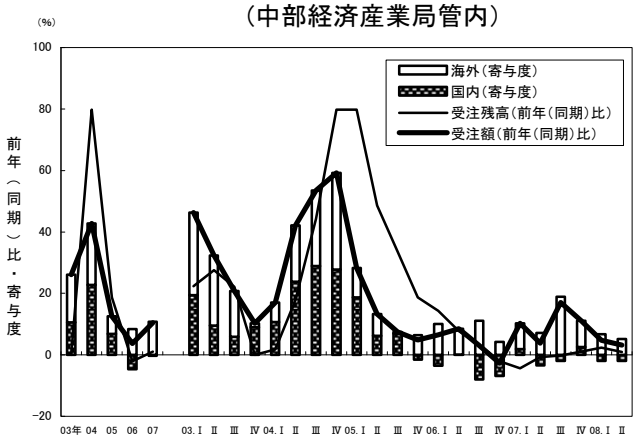
中部経済産業局の「金属工作機械受注状況」で中部地方の金属工作機械メーカー主要８社の受注状況をみると、国内受注合計は２年連続で減少し前年比 0.7%減となった。海外受注は、北米向けが同 3.6%減と５年ぶりに減少した。一方、アジア向けは２年ぶりの増加となる同 35.3%増となり、特にオリンピックを控えた中国向けは 79.4%増と大幅に増加した。ＥＵ向けも同 32.4%増と好調であり、海外受注合計では同 18.8%増となった。国内受注、海外受注を合わせた全体では同 10.4%増となり、06 年の同 3.7%増と比べ増加幅は拡大した（図表４－１０、４－１１）。

図表４－１０　一般機械工業の動向



資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

図表４－１１　金属工作機械の受注動向
（中部経済産業局管内）



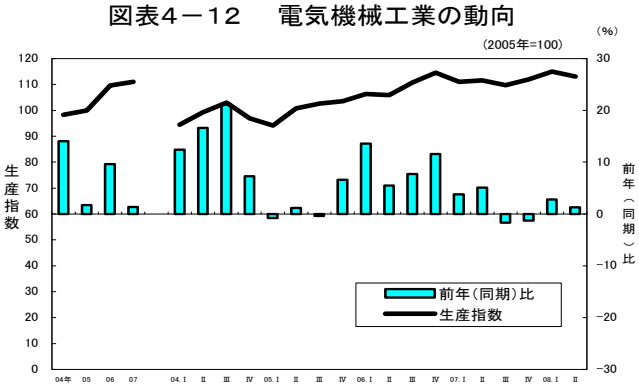
資料：中部経済産業局「金属工作機械受注状況」

〈電気機械工業〉

2007 年の電気機械工業の生産指数は 111.1 で前年比 1.4%増となり、４年連続で上昇した。これは、開閉制御装置・機器が前年比 4.4%増、内燃機関電装品が同 3.8%増となったことなどによる。

なお、エアコン、電気洗濯機等の民生用電気機械は、海外生産への移行等により国内生産の減少が続いているため、07 年は同 19.8%減となった（図表４－１２）。

図表４－１２　電気機械工業の動向

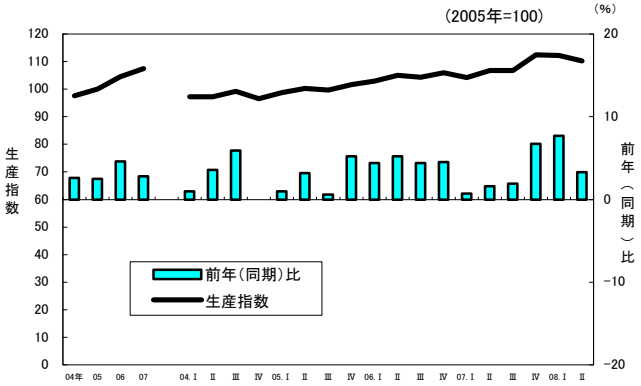


資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

〈プラスチック製品工業〉

2007 年のプラスチック製品工業の生産指数は 107.5 で、前年比 2.8%増となり、５年連続で上昇した。これは、プラスチック製機械器具部品が同 4.2%増となったことなどによる。本県におけるプラスチック製品工業は、輸送機械工業、一般機械工業、鉄鋼業に次いで４番目にウェイトの高い業種であり、このうちプラスチック製機械器具部品が 74.3%のウェイトを占めている。輸送機械や一般機械等の好調を受け、プラスチック製品工業は緩やかながら安定した増加傾向が続いている（図表４－１３）。

図表4-13　プラスチック製品工業の動向

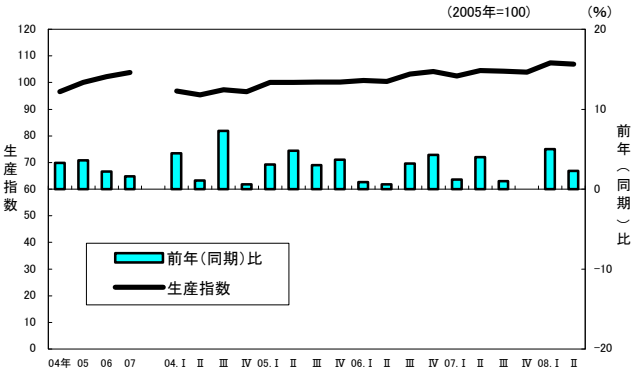


資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

〈鉄鋼業〉

2007 年の鉄鋼業の生産指数は 103.8 で、前年比 1.6%増となり、６年連続で上昇した。これは主に熱間圧延鋼材が同 2.4%増、冷間仕上鋼材が同 3.0%増となったことなどによる。輸送機械向けや産業機械向けなどを中心に好調に推移しているが、06 年からは増勢が緩やかになっている（図表４－１４）。

図表４－１４　鉄鋼業の動向

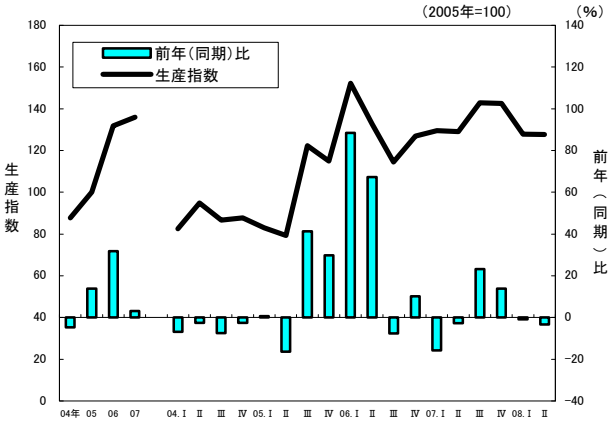


資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

〈情報通信機械工業〉

2007 年の情報通信機械工業の生産指数は 136.0 で、前年比 3.2%増となり、３年連続で上昇した。これは電子計算機が同 6.3%増、民生用電子機械が同 2.8%増となったことによる。00 年に急速に生産が拡大した情報通信機械工業は、パソコン等の需要の一巡により、02 年以降は減少に転じていたが、05 年に入りトリノオリンピックやサッカーのワールドカップの開催に向けて薄型テレビ等が大幅に伸びたことや、デジタルカメラの好調な販売に支えられ、生産は大幅な増加傾向が続いていたが、06 年後半以降は増加が鈍化している（図表４－１５）。

図表４－１５ 情報通信機械工業の動向



資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

〈窯業・土石製品工業〉

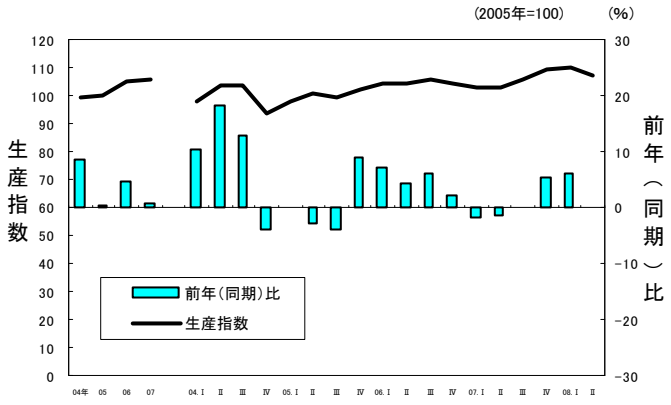
2007 年の窯業 ・土石製品工業の生産指数は 105.4 で、前年比 0.6%増となり５年連続で上昇した。こ

れは、ファインセラミックスが同 1.6%増、陶磁器が同4.0%増となったことなどによる。

ファインセラミックスは、ＩＴバブル崩壊により01年に大幅減となった後、02年以降、主に自動車の生産回復に伴って増加した。04年は情報通信機器向けなども持ち直したことから、同32.6%増と大幅に増加し、05年はその反動で同0.9%減となった。06年に入ると情報通信機械の好調を反映し、ウェイトの高い機能材が大幅増となったことから、ファインセラミックスの大幅増（前年比13.2%）につながったが、07年に入り機能材が同3.2%減となったことから、ファインセラミックス全体でも同 1.6%増にとどまった。

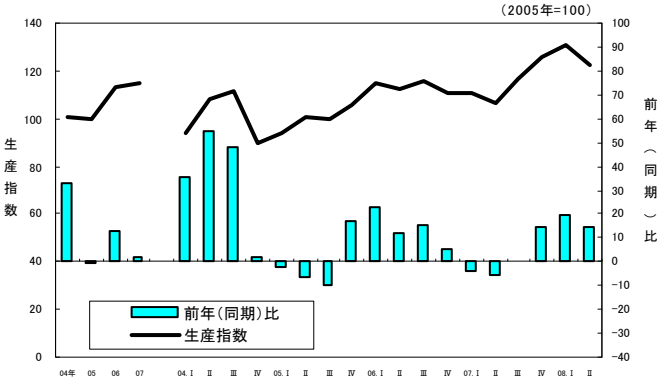
ファインセラミックス以外の品目では、陶磁器、陶管などが前年比増となったが、ガラス・同製品、セメント製品、瓦は前年比減であった。これらの品目は、安価な輸入製品との競合や公共工事の減少により減少傾向が続いている（図表４－１６、４－１７）。

図表４－１６　窯業・土石製品工業の動向



資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

図表４－１７　ファインセラミックスの動向



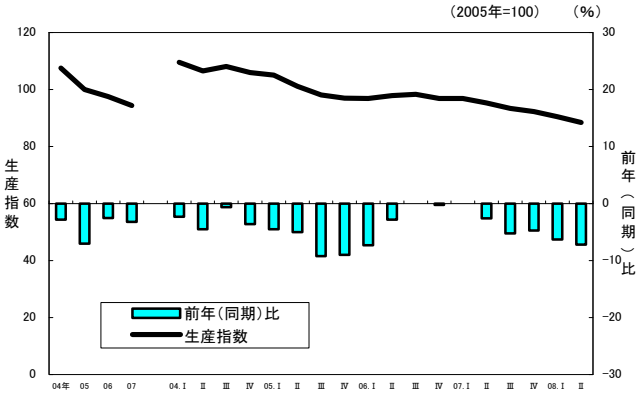
資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」

〈繊維工業〉

2007年の繊維工業の生産指数は94.4で、前年比3.2%減となった。これは、ウェイトの高い織物と染色整理がそれぞれ同7.1%減、同4.8%減となったことなどによる。

繊維工業は、売り上げの減少、廉価な輸入製品との競争激化などのため、減少傾向が長期にわたって続いている（図表４－１８）。

図表４－１８　繊維工業の動向



資料：愛知県統計課「あいちの鉱工業」